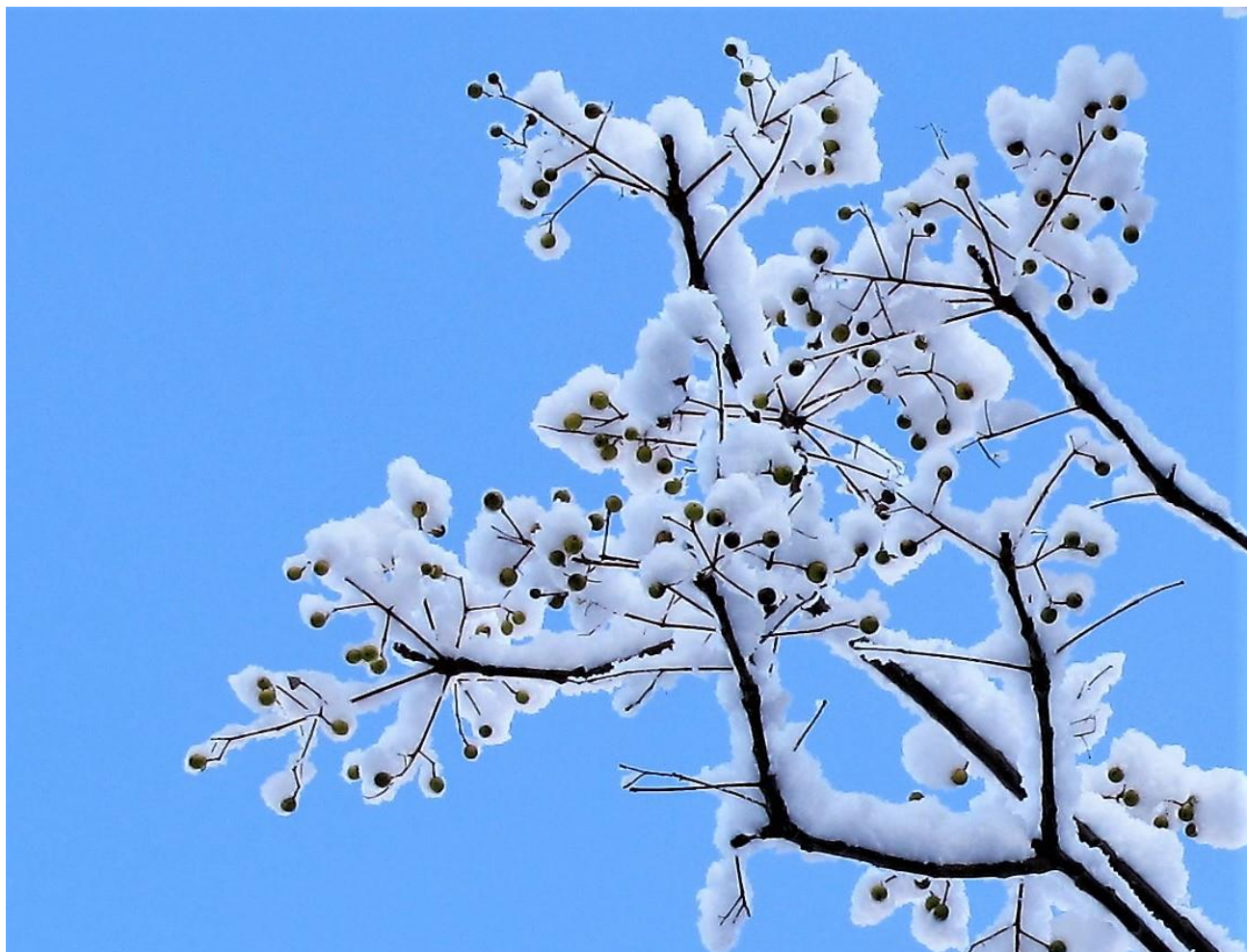


緑化だより

No.135 平成30年1・2月合併号



センダンの実

新年は1月4日(木)から開園します。

- 季節の花(ユズリハ)
- 小さな世界こけ
(コケでないコケ)
- 昆虫の話(動く枯葉)
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内

うらま 遊学の木

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp



季節の花

ユズリハ

「いにしえに 恋ふる鳥かも 弓絃葉(ゆずりは)の 御井(みい)の上より 鳴き渡りゆく」
弓削皇子(ゆげのみこ) 万葉集 2:1111

これを現代の言葉に訳すと

「ユズリハ(弓絃葉)の樹が生えている傍にある井戸の上を鳥が鳴きながら飛んでいます。あの鳥も昔のことを恋い慕っているのでしょうか」

鳴いている鳥はホトギスです。ホトギスは昔をしので鳴く、という中国の故事があります

この歌は、飛鳥時代(673年)、持統天皇が吉野に行かれた時お供をした弓削皇子(天武天皇第6皇子、当時24歳)が、都にいる額田王(ぬかたのおおきみ、当時63~64歳)に贈った歌です。

額田王は天武天皇の最初の後でした。その頃の二人のむつまじい関係をホトギスが偲んで鳴いているのでしょうか、という意味です。この歌には、時代の移り変わりが自然と訪れる新旧交代のあり方が詠まれています。

江戸時代に刊行された『大和本草』には、「春、新芽がすっかり整ってのち、これを見届けるかのように、親である旧葉が落ちるゆえに、ユズリ葉と名付く。また、わが国では歳首の賀具とする」と書かれています。「歳首」は年頭、「賀具」はお祝いの品です。

ユズリハは、ユズリハ科ユズリハ属で雌雄異株の常緑高木です。福島県以西~沖縄、韓国、中国中部の暖地の山地に自生しています。葉の主脈が弓の絃に似ていることから弓絃葉(ユズリハ)の名が出ました。春に枝先に新葉が出そろうと、前年の古い葉が譲るように、

いっせいに落葉する特徴を持っていることから、見事な世代交代で親が子どもの成長を期待して「譲る」、子孫繁栄を表しています。

ユズリハは古来より祝い木として新年の飾り物になくはないものです。お正月にはウラジロや橙(ダイダイ)とともに縁起物として飾られます。「代々譲る」という語呂合わせもあります。

変種のエゾユズリハは北海道、本州の日本海側の多雪地帯に、別種のヒメユズリハは温暖な海岸樹林中に生え、本州の中部以西~九州に自生しています。ユズリハは緑化センターの園内でも見られます。(上村)



ユズリハ

小さな世界こけ

コケでないコケ

コケの仲間ではないのに名前に〇〇ゴケとついているものがあります。

昔から、地面や岩や木の幹に生える、小さく見分けのつきにくい植物は、なんでも“こけ”と呼んでいました。しかし、その中にはコケと同じ環境で育つ小さな種子植物やシダ植物も含まれます。

種子植物の仲間ほど小さくても花が咲き、種子で増えます。モウセンゴケは食虫植物の代表的な植物ですが、水のしみ出る岩や湿地を好み、6月頃小さな白い花をつけます。同じく種子植物にアワゴケがあります。葉の大きさは2~3mm、湿った日陰地を好むのでコケの仲間と間違えてしまいそうです。

シダの仲間では、クラマゴケ、ウチワゴケがあります。クラマゴケは日陰の湿り気のある土壌を好み、地面をはっている様子は、コツボゴケと間違えてしまいそうです。ウチワゴケは、日陰の湿った岩に



モウセンゴケ(種子植物)

へばりついて群落を作り、葉は裂けた団扇を広げたようです。やや大きめのコケと勘違いしそうですが、葉の先にラッパ状の胞膜を作ります。(山根)



アワゴケ(種子植物)



クラマゴケ(シダ植物)



ウチワゴケ(シダ植物)

昆虫の話

動く枯葉

木枯らしが吹くと、木々は丸裸にされ、地面にはたくさんの落ち葉が降り積もります。積もった落ち葉は暖かく、冬の昆虫たちの良いベッドになります。そんな落ち葉の上で見つからないように息をひそめる昆虫がいます。それはアケビコノハです。

アケビコノハは、ガのなかまです。彼らは初夏と秋の2回成虫になり、秋の成虫はそのまま冬を越します。今の時期には越冬中の成虫を見る事ができます。

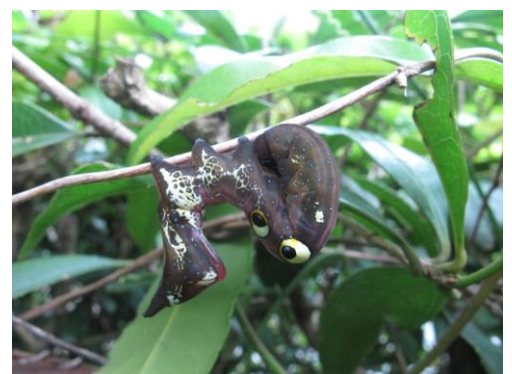
彼らには、ずば抜けた擬態能力があります。頭は葉柄のようにとがり、翅には葉脈や葉の曲がり具合を模した陰影があり、汚れのような斑紋がさらにリアリティを高めます。脚と触角をギュッと縮めてしまうと、枯れ葉以外の何物にも見えません。枯れ葉と違う所は驚かすと動く事、そしてぷりぷりとしたお腹が分厚い事だけです。まさに動く枯れ葉といった昆虫なのです。

繊細な擬態をする成虫とはうってかわって、彼らの幼虫は前衛的な現代美術のようなド派手な姿をしています。人が見てもギョッとするぐらいなので、グネっと曲がったその姿は、目の良い鳥などの天敵を驚かすのに役立つのでしょう。しかし、ハチにはめっぽう弱いようで、連れ去られたり、寄生されたりと成虫になる数は少ないように感じます。けれども、それでいいのです。

なぜなら、成虫は人間に忌み嫌われているからです。特に桃や柿を作る人には大敵です。彼らの口には、ガに似つかわしくない牙があり、桃や柿など、柔らかい果物に傷をつけ、その汁を吸うのです。彼らに吸われた果物は傷口から菌が入り腐ってしまいます。丹精込めて作った果物を食べるのですから好かれる訳がありません。そんな彼らでも姿形がおもしろく、僕のお気に入りの昆虫の一つなんですけどね… (広島市森林公園こんちゅう館 藤井)



枯葉になりきるアケビコノハの成虫
クスノキの葉ほどの大きなガ



アケビコノハの幼虫
目玉模様と星が散りばめられた派手な体

研修会のご案内

- 1月6日(土)『春の七草 学んで試食』
間違えると危険 七草によく似た植物
※要予約先着30名・無料
10:00～12:00 学習室 集合
講師：緑花文化士 横山 直江
- 2月18日(日) 第1回『ジャンボ椎茸植菌教室』
植菌体験し、家庭で栽培
※要予約先着30名(予約開始1/4)・材料費800円
10:00～12:00 学習室 集合
講師：日本きのこセンター 三次支所長 影井 和男
- 3月10日(土)『サクラあれこれ』
サクラの歴史、品種や管理方法などを学ぼう
自由参加・無料
10:00～12:00 学習室 集合
講師：樹木医 正本 大
- 3月10日(土) 第2回『ジャンボ椎茸植菌教室』
植菌体験し、家庭で栽培
※要予約先着30名・(予約開始2/1)・材料費800円
13:00～15:00 学習室 集合
講師：日本きのこセンター 三次支所長 影井 和男
- 3月14日(水)『コケの観察会』
自由参加・無料 ルーペ持参
10:00～12:00 学習室 集合
講師：広島大学名誉教授 関 太郎
- 3月18日(日)『3月の自然探勝』
早春の植物を観察しよう 自由参加・無料
10:00～12:00 管理事務所前 集合
講師：植物研究家 清藤 徹
- 3月18日(日)『日本サクラソウを育てよう』
山野草の育て方を学ぼう
※要予約先着30名・材料費1000円
13:00～15:00 学習室 集合
講師：森林インストラクター 長井 稔
- 3月24日(土)『早春のバードウォッチング』
早春の野鳥を観察しよう 自由参加・無料・双眼鏡持参
10:00～12:00 管理事務所前 集合
講師：日本鳥類保護連盟会員 吉見 良一

※ 臨時開催!!

- 3月26日(月)『早春の写真教室』
早春の植物を撮ろう 要予約先着20名・無料
10:00～12:00 学習室 集合
講師：二科会会員 宗岡 泰昭

◎ 展示会

場所:レストハウス

(ガラスケース展示)

- ・木彫り作品展「あすなる会」 1月6日(土)～3月11日(日)
- (ボード展示)
- ・ひろしま遊学の森「四季の移ろい」写真コンテスト展 ～1月28日(日)
- ・緑化ポスター原画コンクール入賞作品展 2月1日(木)～3月11日(日)

場所:学習展示館

- ・第1回 こども写生大会 作品展 ～1月31日(水)

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

- ・年末年始の休園日は、12月29日(金)～1月3日(水)です。
- ・合格祈願「ヤマコウバシ」のお守り 管理事務所にて、1人1枚、無料



木彫り作品展「あすなる会」より

～森林公園イベント情報～

- ・1月13日(土), 14日(日) 10:00～12:00
『おもちをつけてぜんざいを食べよう』
各日先着300食程度(どなたでも)
- ・2月3日(土) 13:00～ 当日先着200人
『豆まきでプレゼントをもらおう』
節分の日に豆まきをして、いろいろなプレゼントが当たる